

届いた手紙「娘は死にました」

寄贈／下村喬

実家を離れて進学した喬さんは、1943年(昭和18年)まで池田逸江さん宅に下宿していた。

そこでの生活は、家族の一員のように過ごした温かいものだった。

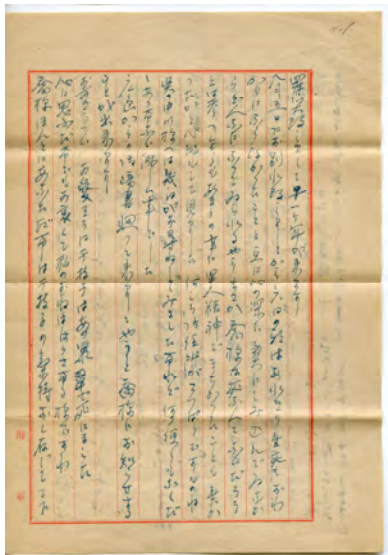
原爆投下後、池田家を訪ねることができないまま県外へ転居した喬さんの元に、逸江さんからこの手紙が届けられた。

それは、喬さんのことを「いずれ娘の結婚相手に」と願っていた逸江さんが、娘の千枝子さんの被爆死を伝える内容だった。やるせない悲しみが溢れた手紙の日付は、被爆翌年の8月14日。

千枝子さんが亡くなって、ちょうど1年だった。



千枝子さん



【内容一部抜粋】

「可愛そうに千枝子はあの爆弾で死にました」

「あなただけは

何時までも可哀がってやって下さいね」

「焼残りのおばさんより おなつかしい喬様」